つなごう！新潟の未来！
Re:Think インフラプロジェクト

新潟を「住み続けられるまち」にするために暮らしを支えるインフラを知る「Re:ThinkインフラプロジェクトⅢ」。第3回目は橋に注目します。人やモノを、より速く、より安全に、よりたくさん運ぶことのできる橋。新潟県内に約5000基もある中で、長岡花火の「ナイアガラ」が架かる橋として知られる長生橋を訪ねました。

人とモノをより速く、たくさん安全に運ぶ「道」

もし橋がなかったら、私たちの暮らしはどうなっていたでしょう？川を目の前にした時、先に進むことができません。深い谷があれば、車や鉄道を走らせることも難しくなります。行きたい時に行きたいところへ。そして、人やモノをより多く、より速く、安全に移動させるために、橋はなくてはならない「社会の道」なのです。

特に新潟県は川が多く、総延長も日本トップクラスであることから、たくさんの橋が必要です。数にして4920基（2021年現在）。信濃川だけでも59基の橋が架かっています。その中で、最初に信濃川に架かったのは、初代の長生橋。1876（明治9）年のことでした。

昔は中洲があり、2本の木橋で右岸と左岸をつないでいたそうです。現在の長生橋は3代目で、1937（昭和12）年生まれ。当時、増えつつあった車の走行に耐えられるよう、鉄骨を三角形でつなぐトラス構造でつくられました。

2代目長生橋（柏崎市立図書館所蔵 小竹コレクション絵葉書）

竣工時の3代目長生橋（長岡戦災資料館所蔵）

名前のように「長生き」するために

「土木学会推奨土木遺産」にも認められる歴史や姿の美しさ、そして長岡花火のナイアガラの会場として、長岡市のシンボル的存在の長生橋。この橋ができたことで、東と西に分かれていた市街地がつながりました。現在でも人やモノを運ぶ大切な道であり、1日に約1万4千台の車が行き来しています。

長生橋は、今年で85歳。鉄骨の橋の寿命は60年程度と言われる中、はるかに長命です。この先も、安全、安心に人やモノを運ぶためには、点検や管理が欠かせません。2020年からは、時の経過とともに傷んだ部分の補修工事が行われています。橋の上部をつないでいる「上弦材」と呼ばれる部分に補強板を取り付ける工事で、高所に屋根や壁のある「足場」を作り、作業が行われています。また、冬になるとトラスに積もった雪を払って橋の負担を軽くする作業が行われるのは雪国ならでは。

これからも名前の通り「長生き」するために、長生橋は日々アップデートしています。

補修工事の足場

雪庇（せっぴ）処理作業

MISSION 4

町をつなぎ、社会をつなぐ

長生橋
長岡市
1876（明治9）年～

メッセージを込めて色鮮やかにライトアップ

2017年8月。長岡花火のフィナーレである三尺玉とナイアガラの中、一瞬、長生橋が黄色に浮かび上がりました。観衆の拍手と歓声。ライトアップは「長生橋の80歳を祝おう」と同年4月に始まった記念事業の一つでした。

1年間限定での事業でしたが、長生橋を街のシンボルと考える市民有志が集まり「長生橋を愛する会」を結成。18年からは会が主体となって、ライトアップを継続しています。

ブルーやオレンジ、グリーン、虹色など月ごとに変わる色には、糖尿病や認知症啓発、環境保全、明日への希望などのメッセージが込められています。夜空に映える鮮やかで美しい色と姿。ライトアップは毎年、4月中旬から12月8日まで行われています。

■長生橋を愛する会
https://chouseibashi.net/
電話番号／080-6643-4059　メール／info@chouseibashi.net
※現在の会員数は個人・団体合わせて255。会員募集中

ぼくの体験記はWebで見てねー！

ナビゲーター
いっすねー！山脇
「よしもと新潟県住みます芸人」として2017年に新潟に移住。TV番組のレポーターを中心に活動。福岡県出身。Re:thinkインフラプロジェクトのナビゲーターとして県内のさまざまなインフラを見学。

私たちは「Re:Think インフラプロジェクト つなごう！新潟の未来！」を応援します

株式会社植木組　株式会社加賀田組　NEXCO東日本　株式会社廣瀬　株式会社福田組　福田道路株式会社　株式会社本間組

株式会社曙建設　エヌシーイー株式会社　大原技術株式会社　株式会社小林組　西田建設株式会社　株式会社原組　藤木鉄工株式会社　一般社団法人北陸地域づくり協会　株式会社皆川組　〈50音順〉